

座中取締方之儀、久々致出精骨折候ニ付、御褒美被下之、

〔當道大記録〕渡邊龍伯遠島之事

一 總錄松島檢校役中、寶曆五亥年三月二日遠島に成り候龍白義ハ、前年春木殿下春彌と申ものにて、渡邊龍白と改名致し、淺草猿屋町に住居、針治導引渡世に致し候間、仲間の者吟味致し候處、押隠し專針治を致し候ニ付、仲間吟味ニ而申紛し候得共、座頭に相違無之ニ付、總錄江願出候處、其後町奉行土屋越前守殿江御願申上候得共、御吟味之上、總錄江御引渡ニ相成候處、剃髮致、仲間ニ成り候と申證文を乍差出、右一札相破り候段、不届ニ付、仕置申付候得共、我意申張り候間、遠島相願候、此もの至而不法、不届至極ニ付、又々御願申上候處、本多伯耆守殿依御差圖ニ、遠島被仰付候事、

寶曆五亥年三月二日

一 八丈島江流罪

淺草猿屋町八兵衛店

渡邊龍伯

亥三十五歳

右之もの同十三未年九月七日病死之旨、明和二丙年正月廿九日、御代官伊奈半左衛門殿ハ總錄江申來候事、

柴田養玄法橋御咎の事

一 京都獄屋町通二條上ル町ニ、柴田養玄と申盲人の針醫住居致し候處、廿五ヶ年以前法橋を申、夫ハ段々繁昌致し、盲人の弟子を取込、檢校座の弟子成り候得者、法橋迄ニハ致し候と進メ、座中末の者ニ無禮等有之候得共、無是非數年其通ニ差置申候、然ル處元仲間之ものに候と申もの有之候ニ付、段々吟味相懸候得者、前岩山檢校の了悦と名付候ものに紛無之故、十老評議之上、養玄町御奉行支配之者ニ候間、丑正月廿八日、町御奉行小林伊豫守殿江書付を以御願申上候様段々御吟味有之候得共、岩山弟子にて無御座と申張濟兼候處、伊豫守殿證人共を多く被